



# 果樹類のナシヒメシンクイの防除 すもものスモモヒメシンクイの防除に

交信かく乱用性フェロモン剤

# ナシヒメコン<sup>®</sup>

農薬種類名(一般名): オリフルア剤  
農林水産省登録: 第22781号

ナシヒメコン<sup>®</sup>は信越化学工業(株)の登録商標です。



交信かく乱用性フェロモン剤の  
詳しい説明はWEBで→



性フェロモンで  
対象害虫の交尾を  
阻害することで  
発生を抑制

薬剤抵抗性を  
獲得した  
対象害虫にも有効

有機JASに  
使用できます

## 交信かく乱用性フェロモン剤

# ナシヒメコン<sup>®</sup>

### ●有効成分：

(Z)-8-ドデセニル=アセタート…………… 87.5%  
安定剤等…………… 12.5%

### ●安全性

人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）  
魚毒性：この登録に係る使用方法では該当がない

●包装形態：50本/袋、60袋/箱

## ナシヒメコンの登録内容

作物名	使用目的	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用方法
果樹類	交尾阻害	ナシヒメシンクイ	50～100本/10a (23g/100本製剤)	成虫発生 初期から終期	ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する。
すもも		スモモヒメシンクイ			

## ナシヒメコンの特長

- 性フェロモン剤の有効成分は微生物等により容易に分解されるため、環境にやさしい防除剤です。
- 性フェロモン剤は、殺虫剤と比べても一般的に抵抗性がつきにくいとされています。
- 作物への残留も心配なく、輸出用作物にも使用できます。

### 使用上の注意事項

- ・本剤は、ナシヒメシンクイおよびスモモヒメシンクイの各成虫の交尾を連続的に阻害し、交尾率を低下させることによる次世代の密度低下を目的としていますので、対象害虫の成虫発生初期から比較的広範囲な地帯で使用することが望ましいです。
- ・対象害虫が高密度に存在する場合には状況に応じて天敵に影響の少ない殺虫剤を併用することが望ましいです。
- ・本剤は樹木等に巻き付け、対象地帯に均一になるように設置してください。また、標準的な使用量は10アールあたり50～100本ですが、立地条件や風向、傾斜等により効果が振れる場合がありますので、諸条件から判断して、必要な場合は使用量の範囲内で、特に周辺部に多めに設置することが望ましいです。
- ・発生初期からの使用は100本、他のフェロモン剤への追加処理としての使用は半量（50本）が標準的な使用量ですが、諸条件から判断して、必要な場合は使用量の範囲内で、多めに設置する事が望ましいです。
- ・本剤は飛来した既交尾雌には効果がないので、特にスモモヒメシンクイを対象とする場合には、寄生樹種を移動する場合がありますため、発生源を確認して使用することが望ましいです。
- ・急傾斜地、風の強い地帯等本剤の濃度を維持するのが困難な地域では使用しないでください。
- ・外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると有効成分が揮散しますので、必ず使用直前に開封し、使い切ってください。
- ・本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

### 安全使用上の注意事項

- ・本剤は皮膚に対して刺激性がありますので、皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には、直ちに石けんでよく洗い落してください。
- ・危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意してください。

### 貯蔵上の注意事項

- ・火気をさけ、直射日光が当たらない冷暗所（5℃以下）に密封して保管してください。

○使用前にはラベルをよく読んでください。○ラベルの記載以外には使用しないでください。○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2021年9月現在の知見に基づいて作成されています。



全農は登録商標 第4702318号

製造元

**ShinEtsu** 信越化学工業株式会社  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1  
TEL. 03-6812-2442

販売元



**協友アグリ株式会社**  
東京都中央区日本橋小網町6-1  
<https://www.kyoyu-agri.co.jp>

2021年9月作成SECP4202109004